

よい会社をつくろう。よい経営者になろう。よい経営環境をつくろう。

月刊

同友

Monthly Communication Magazine DOYU

2016 March

03

Vol.596

03 【特集】

『仲間づくり』は
『幸せづくり』
～福友支部の取り組み～

06 21世紀型 自立型企業づくり
家づくりで地域社会に貢献する
～『うなぎの寝床』をタテにしてみた～

株式会社 黒木建設

09 3・11私たちは忘れない
～改めて写真で見る東日本大震災～

12 3月行事案内

14 自社商品・サービス紹介

15 第9回 理事会報告
2015年度 広報勉強会

我が社の宝「博多町家ロジハウス」

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収しこれからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

はみだし Report

21世紀型 自立型企业づくり

(本誌p.06掲載)



株式会社黒木建設
代表取締役社長
黒木 義彦 氏 (玄海支部)

黒木さんは、学部は違いますが大学の後輩にあたります。彼は大学時代、空手部に所属し、空手道を極めつつ、6年間の大学生活を過ごしたそうです。

1986年、28歳で同友会(青年支部)に入会、同友会歴30年のキャリアです。40歳で玄海支部に移籍、6年前に支部長を2年間務め、「革新」をテーマに掲げ、新しく革新的で楽しい例会づくりを実践する行動力を示し、支部の活性化に大いに貢献しています。

また、役員研修会での楽しいダンスを披露するなど、「肉体パフォーマンス」の好きな男でもあります。

趣味は、「遠州流茶道」を同友会の仲間と25年前に立ち上げ、座禅も16年と渋い面も持ち合わせている男です。

地域活動にもとても熱心で、小学校の「親父の会」や十日恵比須神社の世話人を務めるなど、地域社会になくてはならない男です。

「黒木義彦」ガンバレとエールを送りたくなる自慢の後輩です。 押忍!

記事：株式会社ココスイメージ 富谷 正弘 (玄海支部)

今月の表紙

撮影・文：富谷 正弘
(株式会社ココスイメージ/玄海支部)



(株)黒木建設が50周年(10年前)を迎え、これからの自社がどう「在り」続けるかを考えた時に、黒木社長の想いで創られたコンセプトです。

「ずっと郷土に住むしあわせ」をテーマに「福岡・博多に住む人の心豊かな人生のお手伝い」、「福岡・博多の伝統と町並みへの貢献」を目的とした博多に住む人びとへの「提案型注文住宅」です。

ロジハウスの名前の由来は、ロジ(路地-狭い通り)という太閤町割りをもとに、博多に形成された、古き良き町並みを連想し、「懐かしさ」をイメージして名づけたそうです。

町家には先人のさまざまな知恵と工夫があります。「博多町家ロジハウス」は、博多の気候と風土に合った伝統的な住まいの知恵を活かし、博多の町並みへの貢献と、そこに住む博多の人びとの文化への貢献を目指すものです。



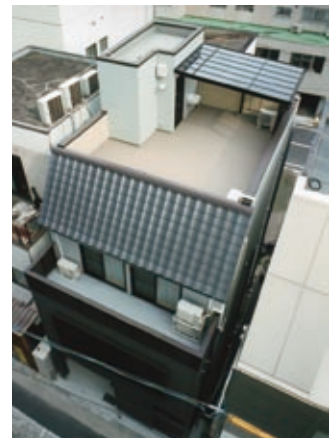
ダイニングの様子(下呉服)



ダイニングとリビングの様子(下呉服)



ロジハウスの右には東長寺が見える



ロジハウスの屋上の様子(住吉)

我が社の宝「博多町家ロジハウス」

『仲間づくり』は『幸せづくり』 福友支部の取り組み

中同協の発表では、全国の会員数が45,000名を超えました(中小企業しんぶん2016年1月25日号)。「三つの目的」を進める運動の総合力と仲間づくりと要因を分析しています。

『量質転化の法則』という言葉があります。量をこなすにつれて、質が上がっていくという法則です。組織について言えば、会員が増えるにつれて、組織の質が向上すると言えるでしょう。

福岡においても下げ止まりを受け、ここ3年はわずかながらも増加に転じています。厳しい経営環境だからこそ、同友会の意義が見直されています。そして特筆すべきは、福友支部が178カ月連続(2016年2月現在)で新しい仲間を迎えており、全国的に見ても稀有な事例です。

今回の特集では福友支部にスポットを当て、同友会で学び実践する仲間を増やし、社員・会社、そして地域・社会の幸せづくりの取り組みについてお伺いしました。

仲間づくりの活動事例

福友支部 仲間づくりプロジェクトリーダー 井上 透



井上 透氏

福友支部ではゲスト向けの「同友会を知る会」(以下:知る会)を毎月実施しております。お陰様で、昨年12月で176カ月連続入会を達成することができ、会員総数も念願の300名に達しました。

仲間づくりプロジェクトの今期のスローガンは「共に学び合い、共

に成長を！」とし、かけ声として「迷ったらGO!」としました。目標は、①OVER300(会員総数300名の突破)、②毎月入会の継続、③年度入会数50名を掲げました。

仲間づくり活動は歴代の先輩方が築き上げてきた情熱と仕組みがあります。仕組みとしましては、知る会へのゲストの参加促進は、知る会開催の担当ブロック(福友支部では7つのブロックに分かれております)にお願いしております。また当日の知る会も担当ブロックに運営して頂いております。私たちは仲間づくりプロジェクトメンバーは案内文の作成や告知、懇親会場の予約などの事務作業、知る会での活動紹介の説明などをサポート



福友支部の同友会を知る会の様子

します。これらを担当ブロックの役員の方々を中心に1カ月以上前からやり取りして実施しております。そして仲間づくりプロジェクトメンバーにとつて最も重要な役割として、知る会に参加頂

たゲストの入会までのお手伝いになります。具体的には翌日には御礼の連絡をし、その後訪問して当日の感想を聞くなどのフォローをします。

このように、仲間づくりプロジェクトメンバーだけでなく、支部全体で会員を増やす活動ができてい

るのは、会員の数だけ生きた経営体験や知恵があると捉え、より多くの経営者との出会いが自社成長の気づきに繋がるとの共通認識を持っているからです。これが肝だと思えますし、仲間づくりへの情熱に結びついております。

福友支部の歴史と先輩会員の苦労話

福友支部 元支部長 中村 美賀子



中村 美賀子 氏

「先輩から受け継がれた歴史を守りながら、さらに善きものへと成長させることを地味にコツコツとやり続ける」そして「核」となる「同友会の歴史と理念」を様々な機会と角度から学び深めることを大切にする。これが、福友支部の歩みであり、これからも歩みつづけ

る道ではないでしょうか。

歴代支部長の「仲間を増やす！」という確固たる意志。その意志を具現化する仲間づくり推進チーム、そして誰もが理解できる仕組みづくりが福友支部の成長を支えています。仲間づくりの取り組みは会社経営と同じです。毎月、最善の努力を行った結果が、新しい仲間をお迎えする。という喜びの結果であり、辞書の1ページの厚みが増す。という、ごくシンプルなこと。

そして、自由闊達に生き生きと活動する福友支部会員のみなさん。道に迷わぬための灯りとなって暖かく見守る歴代支部長達。老壮青それぞれが役割を全うしているのです。

更なるSTEP UPを目指す熱き伝道者達

福友支部長 山田 秀樹



山田 秀樹氏

このたび福友支部は、2015

年をもって支部設立30周年を迎えるに至りました。これもひとえに、会員皆様方からの弛まぬご支援と、支部の先人達のご努力による同友会理念の継承と、地域と共に歩む中小企業の実践に他なりません。

我々はこの30周年を迎え、改めて同友会運動の原点に返り、志を持って同友会理念という財産を活かし、経営者としての大局観や歴史認識を持って論議する、輝く支部を実現したいと考えています。そして、今後とも夢と希望にみち溢れた、本来の生きた学びを共有できる支部であり続けたいと心から願っております。

わが福友支部は平成13年度から

続く会員連続入会記録を持っており、全国屈指のトップランナー記録として知られています。現在も記録は更新中(今期2月度で178ヶ月連続)であり、我々の誇りでもあります。この偉業が達成されたのは、我々は「拡大(仲間づくり)はなぜ必要か」の課題を自らに問い、自らの信念と目標を持って拡大活動を実践してきたからに他なりません。会員全員が一丸となつて辞書の1頁作りに奔走した歴史の結果であると考えます。まさに「積小為大の偉業」であり、先人達の熱き崇高な思いに心を馳せると、感慨深い思いが胸に溢れます。それが我々の支部魂であり「伝道師」を輩出し続ける、

福友気質であると考えます。新会員がもたらす活気ある支部活動は、会員間の友好と事業交流へと花を開かせ、地域全体の明るい未来へと実を結んでいきます。我々は今日も「同友会に出会えて本当に良かった」と他の友人経営者に声を掛け、至る所で多くの人を幸福にする運動を展開しています。それがやがて同友会運動の体現を目指し、21世紀型中小企業づくりへと広がり、そして地域に溢れる活気と更なる幸福を生むことを祈念して止みません。



福友支部30周年記念例会で挨拶をする山田支部長

福友支部会員数の動き

1985年度末	1986年度末	1987年度末	1988年度末	1989年度末	1990年度末	1991年度末	1992年度末	1993年度末	1994年度末
87名	108名	157名	166名	127名	121名	108名	116名	100名	102名
1995年度末	1996年度末	1997年度末	1998年度末	1999年度末	2000年度末	2001年度末	2002年度末	2003年度末	2004年度末
118名	122名	139名	146名	158名	166名	166名	190名	192名	201名
2005年度末	2006年度末	2007年度末	2008年度末	2009年度末	2010年度末	2011年度末	2012年度末	2013年度末	2014年度末
223名	230名	247名	261名	243名	240名	257名	271名	280名	293名

<2015年度>

2015年4月	2015年5月	2015年6月	2015年7月	2015年8月	2015年9月	2015年10月	2015年11月	2015年12月	2016年1月	2016年2月
293名	290名	291名	293名	294名	294名	294名	298名	300名	300名	302名

家づくりで地域社会に貢献する

『うなぎの寝床』をタテにしてみた

創業60周年を迎える㈱黒木建設。新しい事業を打ち立てました。社長の思いと自社の得意技を融合させて作り出した事業を、会社が一枚岩となつて取り組んでいきます。



株式会社 黒木建設

代表取締役社長

黒木 義彦 氏

玄海支部

創業 1956年4月
住所 福岡市博多区上牟田1-22-6
電話 092-411-7300
従業員 16名(うち女性8名)
http://www.e-kuroki.com
福岡一円を中心とした新築、リフォーム及びメンテナンス工事と不動産及び介護支援業務



父親の思い出

今回の取材は、㈱黒木建設代表取締役社長の黒木義彦さんを訪ねました。「父が昭和31年に創業されましたので、今年が60周年の節目の年になります」。

父親の義雄よしおさんは、小さな農家の次男として育ち、戦後の貧しい生活を余儀なくされました。豊かになるためには手に職をつけなければならぬと考え、大工の道を選びました。徒弟制度の下、「盗んで(見て)覚える時代だったと聞いています」と黒木さんは話します。木の種類はカンナ屑を口に含んで味で覚えたと言います。やがて同世代よりも早く稼ぐようになっていきました。

黒木組を立ち上げ親方となり、

取材 広報部
文章 菅原 弘(東支部)
写真 富谷 正弘(玄海支部)

高度成長期を背景に実績を上げていきました。毎日仕事が終わると、大工さんたちは親方の家に集まり一杯やっついていくのが習わしでした。お酒が足りなくなると黒木少年は買い出しに行ったのでした。

ある日、ほろ酔い気分で帰ってきた父親が黒木さん呼び、金庫からお金を取り出して目の前に積んで見せました。「いい仕事をすれば、お客様が喜んでくれる。大工はよか仕事ぞ」と言ったことが強烈な思い出として残っています。

後継者として入社

黒木さんは、大学を卒業してゼネコンに入社しました。父親が病気で



㈱黒木建設 外観

倒れたのを機に黒木建設に後継者として入社しました。前職は現場監督で『経営』についての知識は持ち合わせていませんでした。現状否定をしたり、前の会社を退職した部長を引っ張ってきたりなどしているうちに従来の社員とぶつかったと振り返ります。自戒の念を抱いていました。

同友会に入会

経営の勉強をするために、知人の紹介で同友会に入会しました。志賀島セミナー(経営指針書作成セミナーの前身)に参加し経営について考えてみました。

「当時は業界の中で闘おうと、自分本位に考えていましたね」。

ご近所の(旬)オート商会の森孝一さん(博多支部)とは幼馴染です。夜遅く事務所の電気が点いているのを見ては訪ねていき、仕事談義に花を咲かせていました。そのまま居酒屋へ流れることもしばしば。黒木さんは森さんを同友会に誘いました。森さんの方が先に経営指針書を作成・実行しているのを身近に見て、大いに刺激を受けたと言います。

黒木さんも改めて理念を見つめ直し次のように掲げました。

『人財を創り
安心を創り
日本の豊かなくらしを創る』

社長に就任

平成7年(1995年)、2代目社長に就任しました。会社を4つの分野で分社化の構想を抱いていました。

A: Architecture 建築
B: Better Living リフォーム
C: Construction 建設・設計
D: Development 不動産

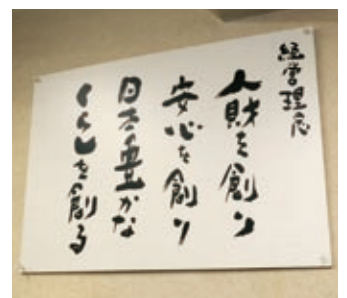
実際に平成14年には『C KUROKI ㈱』を立ち上げます。

創業50周年(平成18年)より同友会の学びに倣い、本格的に新卒採用を始めました。「育成の前に採用ありきです」。同友会の共同求人委員会に参加し、新卒採用を開始しました。現在では学校との太いパイプを構築させています。

「しかし、育成は難しいですね」。残念にも退職するスタッフもいます。「女性が多く残っています。彼女らは貴重な戦力です」と黒木さんは信頼を寄せます。現在、価値観の共有に尽力しています。

お客様への提案事業の2つの目的

スタッフを育成していく一方で、お客様に何か提案できないかと模索していききました。



社内に掲示されている経営理念

「博多の町並みが大好きなんです」と黒木さんは語ります。そんな街並みに駐車場が増え、投資型の建物が目立ち始め、違和感を覚えていました。

事業の一つ目の目的は、博多の伝統と町並みへの貢献を考えていました。

キーワードは町家と路地です。町家とは、町人の住宅のこと。特に商いの場を兼ねて商家とも呼ばれます。

路地は狭い通りを指し路地裏などの表現で使われ、博多では太閤町割を基に形成されています。

昔は間口で年貢・税金が決められていたので、商家は間口が狭い割に奥行きがあるのが特徴です。いわゆる『うなぎの寝床』です。

さらに、二つ目の目的は、博多に住む人の心豊かな人生のお手伝いをする事です。

平成9年、神戸で少年による連続児童殺傷事件が起こりました。



社内の様子

いくつかの要因の中で、その少年の家の間取りが一因ではないかという専門家の研究結果が黒木さんの目に留まりました。「家族のコミュニケーションが取れない」。

そこで3世代は住める空間を提案しようと考えました。現代の社会問題として核家族化。親が共稼ぎで子供は塾通いや鍵っ子。おじいさんやおばあさんと同居できれば解決できる課題は多く、さらに知恵の継承や昔の話も聞けます。一方で介護問題も解消できる部分があります。地域で子供たちを守ることに貢献できます。

狭小な土地を有効利用した3世代同居を模索していたとき、黒木さんのアンテナが捕えたのは木造3階建てを可能にするSE工法でした。まさに『うなぎの寝床』をタ

テにする建築です。

SE工法施工店に認定され、提案型注文住宅『博多町家ロジハウス』が誕生しました。

『博多町家ロジハウス』の特徴として次を掲げています。

- ① 3世代同居
- ② 永く住み続けられる
- ③ 町家の良さの継承
- ④ 快適な暮らしの提案

女性の戦力

この実践には、新卒から鍛えられたスタッフの女性ならではの視線が役立っています。

黒木さんは、3Kといわれる業界で職場環境の改善を図っています。ノー残業デーや産休・育休の設定、職場復帰の環境整備など女性が働きやすい、そしてやり甲斐のある職場づくりに余念がありません。手作り感満載の通信紙『ちかっば』は、隔月発行でお客様とのコミュニケーションづくりに役立っています。

60周年を迎えて

今年、黒木建設は60周年を迎えます。「以前は4つの分社化を考えていましたが、これを機に1社にまとめ、一枚岩で行こうと考えています」。

企業が60年続いた秘訣は、父親の建築に対するこだわりと考えています。引き渡し直前の家を「階段が納得できない」と手直ししたなどのエピソードが残っています。

父親が建てた家も建て替えの時期に入ってきています。お客様には「あなたのお父様のお仕事は確かでした。いまだに狂いは生じていませんよ」などと評価をいただいているそうです。「ホントは建て替えの提案をしたいのですが」と苦笑する黒木さんでした。

そうした実績・信頼の上に、『博多町家ロジハウス』を中心に据えた新しい事業の展開を図ります。

社内のコミュニケーションを向上させるために、社長室を解体し広い空間を確保する予定です。社長室は近くの自宅に移転します。自宅は現在リフォームを施しており、この春から奥さんが中心となって料理教室や知り合いの講師でヨガ教室・茶道教室を開く予定で、地域のコミュニケーションの場となります。

「100周年に向けて新しい展開をしていきます」と意気込む黒木さんです。

地域になくてもならない会社

取材の最後に黒木さんの考える



榎黒木建設のみなさん

自立型企業についてお伺いしました。「地域のお客様にとって、なくてはならない会社だと思います。町家といえば黒木、何かあれば黒木と言われるようになりたいですね。また社員はお客様の思いをデザイン・プランしていきます。社員間で温度差があってはけません。どういふ価値観を持っていくかを共有していかなければなりません。それぞれが将来の目標に向かって学んでいきます。仲良く結果を出せば、またそれが会社の財産にもなっていくでしょう。若い人たちが新しい風を会社に吹き込んでくれると思います」。

取材協力ありがとうございます。

3・11 私たちは忘れない

改めて写真で見る東日本大震災

東京で体験したその瞬間 そして現地取材して思ったこと ～3.11に寄せて～

間々田 正行 (福博支部)

2011年3月11日。それは総武線市ヶ谷駅で電車を降りた瞬間のことでした。大型船のピッチングを思わせる不気味な揺れ、テレビ中継の中、津波に翻弄される車の運転席に見えた人の顔。それらは5年経った今も記憶に残ります。そして3か月後、塩竈市と気仙沼市を取材。惨状を目の当たりにしました。わたしはその体験をブログに綴り、以後、毎年3月11日が来るたびに同じものをアップしています。今回、本誌で「3.11」のページをつくるにあたり、そのブログを再録(ただし一部改稿)してもらうことにしました。



2011年3月13日
11時3分のブログ

3月11日、大学の広報誌の編集打ち合わせで東京に出張。打ち合わせ会場がある市ヶ谷駅で総武線を降りた途端だった。ゆらりときた。まるで大きな船にでも乗っているかのような長い周期の揺れだ。地震だった。

すぐ揺れは収まるだろうとタカをくくっていた。しかし、なかなか収まらない。とにかく15時スタートという会議に間に合うよう日テレ通りを歩き出したけれど、まだ揺れている。情報を取ろうと、つとより早く福岡の事務所へ電話。すると東北地方で震度7以上の地震が起こったという。だが、そのとき

知り得た情報は
そこまで。

携帯からニュースを見ようにもつながらない。再度、事務所に電話をかけたが、もうつながらない。これじゃ、なんのための携帯なのか。とにかく会議

場所に行ってみると、すでに集まっていた編集スタッフのみなさんも不安そう。それでも、会議は始まったのだけれど、なかなか揺れは収まらず、時に下から突き上げるような縦揺れも混じり、まったく落ち着かない。会議自体は30分も続いたろうか。揺れは止まる気配を見せない。会議中も携帯でニュースにアクセスを試みるが、まったくつながらず。情報がなにかとこんなにも不安になるものなのかと実感する。それでも揺れ続けている時間から考えると、相当大きな地震だということ



実際に現場を目の当たりにし、津波の凄まじさがよくわかった。

はわかった。しかし、映像を見るまで、想像もしていない規模だとはわからなかったのである。

会議がひと区切りつき、隣の部屋にあったテレビを見たとき、ぼうぜんとなった。東北地方が津波でとんでもないことになっていたのだ。見入っていたスタッフの間からは「うわっ」とか「ひどい」とかの断片的な言葉しか出てこない。中継映像に人が乗ったままの車が津波に流されるさまが一瞬まじり、息をのむ。結局、会議はお開きになったのだが、首都圏はほとんど



揺れ始めた直後の市ヶ谷駅。人々はみな、落ち着いていた。

の電車が運行をやめるか、大幅な間引き運転で大混乱となり、スタッフも帰れない人がほとんど。わたしも宿泊予定のホテルまで行けない。いわゆる帰宅困難者になったのだが、大学側の厚意で建物1階が開放されることになり、そこに泊まることになった。

窮屈な格好でソファに寝入ってしまったため、からだのあちこちに痛みを覚えながら起床。福岡に帰れるか不安になったが、午後の便はほぼ定刻通り飛ぶことがわかったのでひと安心した。

スタッフのみなさんへのあいさつもそこそこに羽田をめざす。なんとか空港に到着したが、空港ビル内はいつもの様子とはまったく違っていた。一夜を過ごしたであろう人があちこちに疲れた表情で床に座りこんだり、寝そべったりしている。航空会社のカウンター前ではキャンセル待ちの人が長い行列をつくっていた。

印象的だったのはみなさんの振る舞い。進まない行列に叫んだり怒鳴ったり、大きな声をあげる人がおらず、今の状況を素直に受け入れている。逆にヒステリックな空港アナウンスが耳障りではない。

あの、ゆらつと来た瞬間、人々はパニックに陥ることなく、すみやかに電車から降りる姿には感動す

ら覚えた。

帰宅途中、先ごろ開業したJR博多シティに寄ってみた。どの店も大にぎわいで、評判の店には行列までできている。それはいいことだけれど、目の前に広がる光景と、ついきのう見た東北の映像とのギャップが大き過ぎ、言葉が出なかった。

2011年6月12日 6時4分のブログ

ついに被災地に取材に行くことになった。最初に訪れたのは塩竈市。市長にインタビューしたのだが、話を聞くと浦戸という大きな島が市の沖合にあって、それが防波堤の役目を果たしてくれたそう。市内中心部は全壊するような被害はあまり出なかったという。

駅近くにあるお寿司屋さんも営業中だった。「よし、これは地元に貢献しなきゃ」なんていいながら、取材チーム一同でおいしい魚やお



寿司屋さんの壁には、どこまで水に浸かったかを示す紙が貼ってあった。

寿司をいただくことにした。板さんに話を聴くと、建物は流されなかったらしい。でも、「ここまで水は来たんですよ」と壁の上の方を指でさしてくれた。

こういう立ち直った店(でも、改装などにかかなりの借金を背負ったらしい)のことがあまり伝えられていないのでうれしかったが、それはほんの一部であることが翌日訪れた気仙沼でわかった。一部の報道を受け、被災地

はもう落ち着いたみたいに思っている人もいるようだが、5月末時点の現実はまったく違っていた。

気仙沼では地元新聞の記者を取材したが、彼も知り合いなどからそんな電話が入ると言って憤っていた。現地ではようやく瓦礫を片付けるための道路が形を現した程度に過ぎず、まだまだ復興に向けて一歩す



左上の写真のように、川に流された家があるかと思えば、しっかり建っている家もあった。

ら踏み出せていないのだった。

一応、6月に基幹産業であるカツオの水揚げが再開できるような付けがあつてのことではなく、目標を立てることで復興への意気を上げようということらしい。実際、カツオが水揚げされても市場がない、倉庫がない、流通のためのトラッ

クがないなど、関連産業は壊滅状態で、ないない尽くしなのだ。驚いたのは市内を流れる大川という川の両側で、被害状況がころっ

と違うことだった。川の手前の地区は壊滅。でも、川向こうにはしっかりと家が残っている。同じ気仙沼の中でもこうも違う。

先述したように同じ東北でも復興に向けて進んでいるところもある。ば、気仙沼のようにまだこれからというところもあり、現状は自治体に

よって異なるし、その自治体内でも地域によって被害規模が大きく違う。このことはやはり現地に行かないとわからないことだ。

改めて東日本大震災を振り返る

広報部会長 菅原 弘 (岩手県大船渡市出身)

1月30日(土)福岡同友会の役員研修大学に岩手同友会より田村満さん(代表理事・㈱高田自動車学校 代表取締役)と河野通洋さん(理事・㈱八木澤商店 代表取締役)をお迎えして、『中小企業経営者として地域を如何に再生したか、実体験を語る』というテーマで報告していただきました。

あの震災から5年。いまだ多くの方が仮設住宅での生活を余儀なくされています。もと

もと仮設住宅は5年住むことなど想定していません。寒い季節は人々をいまだ不安に追いやります。復興は徐々



田村 満氏



河野 通洋氏



大船渡市の様子 2009年3月2日撮影



大船渡市の様子 2011年3月11日撮影



大船渡市の様子 2013年3月5日撮影



かさあげ工事

に進みだし、沿岸部ではかさ上げ工事が進んでおります。

壊滅的被害を受けたJR大船渡線の沿岸部は、BRT(バス高速輸送システム)が住民の足となっています。

河野さんは震災直後から「1社もつぶさない」と一貫して言い続けています。中小企業だからこそできる『人間らしく生きる』経営を提唱しています。また、エネルギーシフトも活動に入れていきます。

田村さんは、この5年で感じたこ

とを漢字一文字で表してくれました。『恕(じよ)』。思いやりの心を表します。多くの人からいただいた「思いやりの心」に感謝の念を表します。

「3・11私たちは忘れません」。福岡から「スマイル・アゲイン」の歌に復興の思いを込めます。そうして、きつと花が咲くのです。



BRT(バス高速輸送システム)



被災地の路地に咲く花

17 木 18:30~21:00 西支部
3月例会

女性が活躍できる会社をつくろう!(仮)

- 福岡ビル9F 福岡市中央区天神1-11-17 ☎092-716-8021
- 権藤 光枝 氏 有限会社 Branches 代表取締役 (福岡支部)

17 木 18:30~21:00 福友支部
3月例会

勇気ある決断! ~自社発展の為に、変えるものと変えないもの~

- TKPガーデンシティ天神 福岡市中央区天神2-14-8
福岡天神センタービル 8F ☎092-720-8003
 - 林田 浩暢 氏 合資会社若竹屋酒造場 社長 (りょうちく支部)
- 企業の継続及び発展の為に、激しい経営環境の変化に対応するためにも経営者の勇気ある決断が必要です。会社を黒字化するために粗利を重視し、その結果売上げの85%を占めていた商品の生産中止を決断した林田氏に、この決断に至る経緯やそれまでの葛藤、そして決断を下す際の勇気についてご報告頂きます。

17 木 18:30~21:00 糸島支部
3月例会

この手があったか! つながる・広がるお客様作り

- 糸島市商工会館大会議室 糸島市前原北1-1-1 ☎092-322-3535
 - 平川 雅樹 氏 有限会社アサム 代表取締役 (糸島支部)
- 売上の基礎を作り、経営を安定させるために必要なのは、自社の「ファン」、つまりリピート・継続利用して下さるお客様であり、新しいお客様を紹介して下さる方です。「ファン作り」について考え一緒に学びを深めたいと思います。

17 木 18:30~21:00 ひびき支部
3月例会

後継者の経営体験報告 ~後継者の経営指針~

- コムシティ 大会議室 北九州市八幡西区黒崎3-15-3 ☎093-641-9360
- 小林 正広 氏 株式会社上津役製作所 代表取締役 (ひびき支部)
- 大野 仁 氏 株式会社大野 代表取締役 (ひびき支部)

今回の例会はどう後継者に継承するのではなく後継者がどう経営してきたかを経営体験報告を行い次世代の経営者の方々の心構えや経営のヒントになればと思います。

17 木 18:30~21:00 りょうちく支部
3月例会
(大分県日田支部との合同例会)

山のなかのクリーニング屋3代目の野望と先見 ~社長が変われば会社が変わる~

- 筑後川温泉ふくせんか うきは市羽浮町古川1099-8 ☎0943-77-3131
- 馬場 亮次 氏 馬場クリーニング 代表者 (りょうちく支部)

同友会に入会し、経営指針について学び作成して、実践していく中で、いろいろと大変ではあったが少しずつ自分の経営の先が見えてきた。これまで、試行錯誤しながら新たな道を展望し、一歩一歩もつとしている現状と一緒に共有し、氏の経験から自分の経営を深く掘り下げて考える機会にしていきたいと思います。

18 金 18:30~21:00 筑豊支部
3月例会

理念で飯が食えるのか!?

- ユメニティのおがた 直方市山部364-4 ☎0949-25-1007
- 阿久津 岳生 氏 株式会社福岡工務店・株式会社不動産福岡 代表取締役
一般社団法人全日本工務店協会 代表理事 (中央支部)

同友会の三つの目的を達成するためには、経営指針書の成文化が必須項目の一つであり、同友会では発足当初より今日に至るまで、全会員に強く訴えかけています。よい経営指針書を作成し実践する為には、独自の強い理念が必要になってきます。理念とは何なのか?本例会では、理念について阿久津氏に痛快な報告を行って頂いた後、参加者に活発な討論を行って頂きたいと考えています。

18 金 18:30~21:00 久留米支部
3月例会

事業承継

- 萃香園ホテル 久留米市柳原町87 ☎0942-35-5351
- 支部会員で承継をする側とされる側で数名

事業承継については、難しい課題もたくさん聞かれます。そこで今回は、承継する側とされる側から数名登壇いただき、パネルディスカッションという形式で、率直にスムーズな承継ができるように意見交換をしていただき、今後のヒントにしたいと思います。

22 火 18:30~21:00 南支部
3月例会

地獄を見た男が伝える人生を生かす経営 ~あなたの人生、生かせてますか?~

- 天神ビル 福岡市中央区天神2-12-1 ☎0120-323-920
- 小津 智一 氏 株式会社OZ Company 代表取締役 (糸島支部)

サラリーマンから独立し、成功を夢見て事業を開始するが、なぜか事業も家庭も究極の危機に立たされる。裏にもすがれる気持ちで入った同友会では、先輩方からの本気のアドバイスで殻に閉じこもる小津社長。そんな追い詰められた状況からどうやって復活したのか!? 何が変わって事業と家庭で絶対的な幸福感を得ることができるようになったのか!?

22 火 18:30~21:00 企業連携推進委員会
FAST3月例会

自社ブランディングの強化 ~他との差別化で売り上げアップにつなげよう!~

- 福岡県中小企業家振興センター 403会議室
福岡市博多区吉塚本町9-15 ☎092-622-6230
- 松永 幸子 氏 ハロー 代表者
福岡県よろず支援拠点 サブコーディネーター (福友支部)

23 水 18:30~20:30 共育委員会
3月度共育委員会

2016年度行事検討会(仮)

- 同友会会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 11F ☎092-686-1234

24 木 18:00~21:00 第127回 新会員
フォローアップセミナー

- 同友会会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 11F ☎092-686-1234

25 金 18:30~21:00 嘉飯支部
3月例会

それでいいの!?あなたの経営 ~想いを伝えあう経営指針書~

- パドドウ・ル・コトブキ 飯塚市片島1-7-62 ☎0948-22-5138
- 山口 明子 氏 ASAP動物病院 副院長 (筑豊支部)

「同友会に入った一番の目的は経営指針書を作ることでした。」と語る山口さん。経営指針書とは何か、どうして経営指針書を作ろうと思ったのか、そして作った経営指針書をどうやって実践したのかについて、山口さんの実体験から報告していただきます。経営指針書をよく知らないという方や、経営指針書のことは知っているがまだ作ってない、あるいはうまく使いこなしていないという方にとって今回の山口さんの報告は学びになると思いますし、経営指針書を既に作り、実践しているという方にとっても、他の方の経営指針書の内容や実践方法などを知ることは学びになると思います。

28 日 18:30~21:00 経営労働委員会 労務管理部
人事・労務の基礎知識セミナー

安全配慮義務について

- 天神パークビル 福岡市中央区大名2-8-18 ☎092-720-2122
- 是枝 秀幸 氏 鴻和法律事務所 弁護士 (博多支部)

会社(使用者)は常に賃金の支払義務のみではなく労働者の生命、身体、健康などを危険から守る安全(健康)配慮義務を負っています。今回は、安全配慮義務違反になった場合会社は多大な損害をこうむる恐れがありますので事前に予防しておく為にも是非参加して、知識を深めて頂ければと思っています。

4/2 日 14:00~17:00 同友すばる委員会
事業承継塾第6講

事業承継時の保険の活用

- 天神ビル11F 福岡市中央区天神2-12-1 ☎0120-323-920
- 中川 甚広 氏 株式会社ベストプラン 代表取締役 (筑豊支部)

経営者にとって「事業承継」をスムーズに行うことは最大の課題であり、責務です。後継者教育?親族・社内承継?株式承継?など、事業承継に関するさまざまな課題を勉強します。

3月行事案内

お知り合いの方を誘って、是非ご参加ください。

お申し込み、お問い合わせは、e.doyu
もしくは、同友会事務局までお願いします。

4金 18:30~20:30

広報情報化推進本部
広報勉強会

見出し・キャッチフレーズの作り方

- 福岡同友会会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15
福岡県中小企業振興センタービル11階 ☎092-686-1234
 - 矢野 寛治 氏 矢野寛々房 代表者 (元福岡コピーライターズ・クラブ理事長)
- 矢野さんは、博報堂九州支社在籍時から「中洲次郎」の名で、西日本新聞や「ぐらんざ」などの地元誌でコラムを執筆してきました。博報堂を退職後、映画評やレトロなどの執筆活動を中心に、企業PR向けのコピー、文案作成なども手掛けています。勉強会では、矢野さんが指定するテーマに沿った見出しやキャッチフレーズを考えるワークを行い、矢野さんの評価から見出しやキャッチフレーズの考え方や作り方を学びます。

8火 16:00~18:30

ソーシャルビジネス委員会
3月例会

障がい者も健常者もボーダレスな社会に生きる

- 天神パークビル 福岡市中央区大名2-8-18 ☎092-721-5530
 - 桑原 由美子 氏 NPO法人 発達障がい者就労支援ゆあしが 理事長 (西支部)
- 人口の少子高齢化に伴い生産年齢人口は減少をたどっています。働き手が減っていくのであれば、多様な人たちが働き社会を支えていく時代がやってきます。その中で障がい者を戦力として活かし、社会の中で共に生きていくためにはどのような事を考えればよいのか…。発達障がい者の就労支援という事業をNPOで行いながら見えてきたことなどを報告します。

12土 15:00~18:00

役員研修室
第23期役員研修大学 第6講

総括講義

- 同友会全体会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15
中小企業振興センタービル11F ☎092-686-1234
- 中山 英敬 氏 株式会社ヒューマンライフ 代表取締役 (南支部)

15火 18:30~21:00

博多支部
3月例会

縁とつながり

- 天神ビル 福岡市中央区天神2-12-1 ☎0120-323-920
- 刈川 龍之介 氏 有限会社カリカワ塗装 代表取締役 (博多支部)
- 原 尚徳 氏 有限会社原企画 代表取締役 (博多支部)
- 金井 龍男 氏 株式会社スマイルホールディングス 代表取締役会長 (博多支部)

3名の報告者から、仲間づくり、発想づくり、仕事づくりを学びます。

15火 18:30~21:00

かすや支部
3月例会

業界の課題 自社の展望

- 同友会全体会議室 福岡市博多区吉塚本町9-15 11F ☎092-686-1234
- 原 慎太郎 氏 原プロパン瓦斯有限会社 後継者 (かすや支部)

15火 18:30~21:00

北九州支部
3月例会

「企業は人なり、心を耕す共育」

- KMM 第7会議室 北九州市小倉北区浅野2-14-1 ☎093-511-4101
 - 光本 智恵子 氏 株式会社すこやか工房 代表取締役 (東支部・共育委員長)
- 光本さんの会社(健康食品通信販売事業)は、創業期の苦しい経営状況から抜け出し、その次の課題が「人材不足」で試行錯誤しているときに、同友会の共同求人との出会いで、キャリア採用から新卒採用に切り替え「人を育てる」戦略に切り替えています。人材の確保は、どの企業でも困難を極めている中で、人を生かす経営、三位一体の経営の実践について学び、更に、どのように考え取り組んでいっているのかを学びます。

15火 19:00~21:00

青年支部・青年部連絡会
3月合同例会

ゼロからの挑戦 ~会社と同友会と不離一体の活動の軌跡~

- ウィズザスタイル 福岡市博多区博多駅南1-9-18 ☎092-433-3900
- 松野 誠之 氏 株式会社ライブイノベーション 代表取締役社長
香川同友会会員 (青年部会 会長)

香川と世界を繋ぐ! そんな志高いビジョンを持って不動産業を経営される松野氏。その熱き想いと行動力で自身の事業との不離一体の活動を実践してこられた松野氏に、青年部立ち上げの経緯や数々の問題に立ち向かってこられた体験を報告していただきます。

15火 19:00~21:00

大牟田支部
3月例会

経営指針書で想いを伝える

- グランドホテルホテル清風荘 大牟田市原山町2-4 ☎0944-56-1212
- 磯濱 玄海 氏 有限会社グリーンピース磯浜 取締役専務 (大牟田支部)
- 黒田 崇 氏 株式会社総本家黒田家 常務取締役 (大牟田支部)

今回のテーマは、『社員さんに向けての経営指針書発表』です。この報告を聞き、どのように作成すると、社員さんに想いが伝わるのかを自社に置き換えて考えていきます。経営指針書を活用し、この環境の変化の厳しい中、社員一丸となってどう乗り越えていくのか。報告を受けて自社の経営指針の見直しや作成、そして社員さんと共有することを目的として開催致します。

16水 18:00~21:00

東支部
3月例会

共に輝く社会「男女共同参画社会」ってどんな社会!?

- ウィズ・ザ・スタイル 福岡市博多区博多駅南1-9-18 ☎092-433-3900
- 中嶋 玲子 氏 福岡県男女共同参画センターあすばる 元館長

「女性活躍推進!」と、政府の方針にも掲げられているが、まだまだ女性が働く環境は整っていないとはいえません。男女平等ですが、同質ではないので、考え方や行動の仕方が違っても当然なのかもしれません。しかし、より男女相互の理解を深めることにより、より良い環境、女性活用・活躍の場がつけられ、ひいては職場の活性化のヒントにしていける内容です。

17木 18:00~20:30

福博支部
3月例会

弱み×弱み=強み(仮)

- IPシティホテル 福岡市博多区中洲5-2-18 ☎092-262-2009
- 八尋 健次 氏 株式会社グリーンハンドユニオン 代表取締役 (東支部)

17木 18:30~21:00

中央支部
3月例会

泣こよか、ひつ飛べ ~挑み続けるこだわり経営~

- 天神ビル11F 福岡市中央区天神2-12-1 ☎0120-323-920
- 山崎 信一 氏 株式会社スタジオ パッション 代表取締役 (中央支部)

重大な決断をするためには、現在の自社を取り巻く経営環境だけにとらわれず、自社が何を指すのかというグランドデザイン(全体構想)を持ち、その方針を貫く必要があります。山崎さんのこれまでの決断、行動を報告をしていただきます。

17木 18:30~21:00

筑紫支部・玄海支部
3月合同例会

事業承継そして事業変革

- 天神ビル11F 福岡市中央区天神2-12-1 ☎0120-323-920
- 曾根崎 善郎 氏 有限会社曾根崎研創 取締役 (玄海支部)
- 宮原 博幸 氏 宮原福樹園 代表者 (筑紫支部)

事業承継をするにあたり、戸惑い、悩み、現状維持で良いのか、何を行えばもっと効率よくできるのか、今後事業をどのようにしていくべきか報告していただきます。それぞれの悩みをどのように変えて行ったか、自社の悩みと照らし合わせながら考えていきます。

自社商品・サービス紹介 株式会社ロジネットシステムズ

ロジネットシステムズは車両情報が『リアルタイム』に把握出来るGPS車両動態管理システムを開発

事務所側画面



『車両が見えれば、人が見える！
人が見れば、経営が変わる！』

『GPS車両動態管理システム』とは、事務所のパソコンで、リアルタイムに車両位置・状態を把握するシステムです。

車両の**現在位置は勿論、走行速度**／**方向・停車時間・アイドリング時間**がわかります。又、VICIS渋滞情報も表示されます。

2014年4月リリース以降、お客様は全国に40社以上になりました。

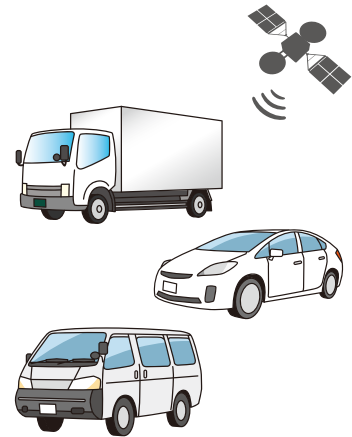
業種は、運送会社の他、産業廃棄物運搬・生コン・ダンプ・サービス



これまで高いイメージのGPSシステムが、非常に低価格で導入できる為、多くのお客様から採用頂いております。

2015年秋、幕張での展示会に出展し、多くのお客様から高い評価を頂きました。既に大手企業様からのご注文や、検討したい企業様、販売代理店としてやりたいと言う企業様が数多く立ち寄って頂きました。

カー・営業車・民間救急車両と色々な業種で活躍しています。



ロジネットシステムズのGPS車両動態管理システム(SwiftGPS)と他社との違いは!

- 速い・・・車両情報が瞬時に分かる (他社は数分かかる場合が多い)
- 簡単・・・車載端末の操作不要 (面倒なボタン操作が不要)
- 安い・・・初期費用0円から導入可能 (端末価格・ランニング費用が圧倒的に安い)

多くの導入メリット

- お客様からの急な問合せの迅速な対応可能
- 配送効率のUP
- 不明確な走行が無くなります
- 社員の意識が大きく変わる
- 帰着予測が分かり、無駄な時間が削減
- 無駄なアイドリング抑制による燃料費削減
- リアルタイムな温度管理 等々



主な基本機能

1. 車両の速度・走行方向 (走行始めると自動的に走行方向を示す)
2. 車両の停車時間 (停車すると自動的に正面を示す)
3. エンジンのON/OFF (アイドリング) 状態・時間
4. 車両の走行履歴
5. 登録地点に到着すると、登録先名が自動的に表示
6. 渋滞情報(VICIS)と地図更新
7. 車両区分毎に車両の色分け・画面表示
8. メッセージ送信機能
9. 振動(衝撃)感知機能 (振動により電源ON)

オプション機能

1. 携帯電話等でも、位置確認が可能
2. 庫内の温度管理
3. ドアの開閉状態管理
4. ドア開閉感知機能(ドア開閉で電源ON)
5. 冷凍機連動機能(予冷時でも温度管理可能)
6. 呼出ボタンにより、呼出・違反警告音が鳴らせます

GPSシステムのデモ体験・無料お試しの実施中!



〒813-0032 福岡市東区土井2丁目2-31
TEL 092-674-5517 FAX 092-674-5518
<http://www.loginet.jp>



お問い合わせはコチラまで

0120-967-269

代表取締役 於保 秀彦 (博多支部)

2015年度 第9回理事会報告

■ 日時：2016年1月27日(水) 15:30～17:20
■ 出席：44名 (出席率75.9%)

■ 場所：福岡県中小企業振興センター 202会議室
■ 議長：貞池 龍彦 (副代表理事)

協議・審議事項

- 1 仲間づくりの活動(年度末にむけた動き)
 - ・現在の会員数の動きを確認。1月27日現在2069名で、前年同月比35名増。今期末には2100名を達成したい。
- 2 政策要望提言活動関係
 - ①県内全自治体へのアンケート調査の実施
自治体に向けてのアンケート調査実施について提起され、拍手をもって承認された。
 - ②福岡県中小企業政策に関する要望と提言作成のための要望・提言アイデア集約
会員の要望をしっかりと聞き、福岡県への政策要望・提言につなげたい旨説明があり、会員に対して要望・提言アイデアを募集することについて提起され、異議なく、承認された。

③公平な税制実現と中小企業の経営を守るための、中同協への政策提言提起
1月の中同協幹事会後の九州沖縄ブロックの代表者会議の場で、夏の参院選を見据え国に対して声を上げていくべきだという声上がり、中同協に対し提言を出すことを検討していることが説明された。

※ 理事会報告全文は、e.doyuの文書管理(理事会報告-2015年度)にアップしています。会員の方は全て閲覧できます。

〈訃報〉

西支部所属の松尾 守氏(㈱平尾自動車工場 取締役会長)が1月11日にご逝去されました。
元福岡同友会事務局長・専務理事<1984年～1997年>の荒井 照雄氏が10月17日にご逝去されました。
謹んでご冥福をお祈り致します。

2015年度 広報勉強会

中小企業ならではの広報のイロハ ～自分たちの活動を自分たちの手で伝えていくために～

時間 18:30～20:30

会場 福岡同友会会議室 (福岡市博多区吉塚本町9番15号 福岡県中小企業振興センタービル11階)

参加費 1,000円 (各回ごとの参加費となっています)

定員 40名 (先着順になります) ※また、今回は会員向けの勉強会となります。

第2回 2016年 **3月4日(金)**

見出し・キャッチフレーズの作り方

■ 講師 矢野 寛治 氏 矢野寛々房 代表者(会外) (元コピーライターズ・クラブ理事長)

第3回 2016年 **4月8日(金)**

「新規集客とリピート化」を成功させる7つの仕組み構築セミナー

■ 講師 米満 和彦 氏 (株)ザッツ 代表取締役(福友支部)

お問合せ 一般社団法人 福岡県中小企業家同友会 事務局 (担当: 旭、大庭)
TEL: 092-686-1234 FAX: 092-686-1230 mail: s_asahi@fukuoka.doyu.jp



会員からの

自由投稿!

このコーナーでは、会員のみさんから寄せられた記事をご紹介します。

1226・28東京の休日

～新宿ピットインと私的まち歩き～

昨年の終わり、ジャズのライブハウス・新宿ピットインの開業50周年を記念するコンサートが2日間行われることを知り、衝動的に両日分のチケットを予約した。池袋の文芸座とともに、わたしの20代に必然だった店の50周年を祝いたかったからだ。

ピットインとの出会いは高校時代。当時、ジャズに目覚めたわたしは植草甚一が関わっていた月刊誌「宝島」を通し山下洋輔トリオを知る。そして高校3年のとき、受験勉強などまったくしなかったのに東京に行きたい、ピットインに行きたい、山下洋輔トリオを見たい一心で受験目的と偽って上京し、店に行った。そして一浪後、東京の大学に入り、ことあるごとに通い、生のジャズという洗礼を受けたのである。

そこまでこの店に入れあげた理由は今もわからない。まして、このことが後の人生にどう影響したかなんてこともわからない。ただ、生のジャズを聴きたかった、大学のクラブ活動でジャズをやっていたから、あわよくばプロの技を盗みたいという思いもあったのかもしれない。



最初期のピットイン(パンフレットより。その後2度移転し現在は2丁目に)。いつ頃の撮影かわからないが、ひょっとしてこの行列の中にわたしの姿があるかもしれない

肝心のコンサートだが、渡辺貞夫、日野皓正ら日本を代表するジャズミュージシャンがずらり顔を揃え、50年という歴史の重みと貴祿、日本ジャズシーンへの功績の大きさをあらためて感じさせた。目当ての山下洋輔トリオは歴代のメンバーが次々に登場し、かつて18の小僧の脳天を吹き飛ばしたパワーとパトスで40年後のオヤジの脳天を再び吹き飛ばしてくれた。

その興奮も冷めやらぬうち、30数年振りに食べたアカシアのロールキャベツ、東京のクライアントがわざわざ催してくれた居酒屋池林房(椎名誠らがたむろしていた飲み屋)での酒席、初めて訪ねた御殿山の原美術館、なぜか築地市場と柴又帝釈天、心んだ神田の古本街。ふらふら、まち歩きも楽しんだよき東京の休日であった。

間々田 正行 (福博支部)



東日本大震災被災地支援チャリティコンサート&講演会

3.11 忘れない ～これからのわたしたちにできること～

東日本大震災直後の被災現場を見て、この被災地の為に何かをしないと...その思いに動かされてサンタプロジェクト九州が立ち上げられました。教会(日本イエス・キリスト教団 福岡教会)と地域の方が協力し合っ



たバザーやチャリティコンサートを行い、子ども達にクリスマスプレゼントをお届けしたり、カフェを設営して仮設住宅の方々をお招きしたり。九州から「忘れない」心をお届けしています。

富谷 正弘 (玄海支部)

日 時 3月11日(金) 19:00~21:00 (18:00開場)
会 場 西南学院大学チャペル (福岡市早良区西新6-2-92 中央キャンパス内)
主 催 サンタプロジェクト九州

問合せ サンタプロジェクト九州 事務局 TEL:092-873-6230



朝岡 勝氏



ソン・ソルナム氏



デニス・サファテ氏

あなたの記事でこのコーナーを飾りませんか!

このコーナーの記事を公募いたします。テーマは自由です。川柳、写真、地域の紹介、雑学...等々。みなさんの投稿をお待ちしております。

投稿方法...電子メール、郵送いづれも可。表題に「月刊同友 自由投稿コーナー」とご記載ください。

送 付 先...一般社団法人福岡県中小企業家同友会 広報情報推進本部広報部 〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号

もしくは、福岡同友会事務局 旭 (s_asahi@fukuoka.doyu.jp) まで

※応募が多数の場合は編集委員会で選考いたします。